



## 湾岸・アラビア半島地域ニュース

### イラク：安定化のための国際会議

(3月11-12日付現地報道)

3月10日、バグダードで「イラク安定化のための国際会議」が開催された。

1. マーリキー首相は開会演説で、イラクの国土が近隣諸国との代理戦争の戦場とならないよう強く求めた。これは、名指しは避けたものの、イラク国内の宗派間抗争を煽っているとされる周辺諸国に注意を喚起したものである。又、同首相は、周辺諸国を始めとする外国がイラク国内の特定の宗派、民族、政党を支援することでイラクの国内事情に介入することを止めるよう訴えると共に、今日イラクで起きているテロ行為は、サウジアラビア、エジプト、更に全世界で起きてきたテロ行為と同じであると述べ、テロとの戦いに対する参加諸国の協力を呼びかけた。
2. ジバーリー外相は会議後の記者会見で、本会議は極めて前向き且つ建設的であったと強調すると共に、治安・国境管理協力、イラク人避難民、エネルギーの三点につき各々検討する専門家委員会を設置することで合意がなされたと述べた。
3. ハリルザード駐イラク米国大使は、本会議の場で米国代表がイラン及びシリアの代表と直接意見を交わす場面があったことに言及し、それらの意見交換はビジネスライクで建設的であったと述べると共に、次回会議にG8(日本、ドイツ、イタリア、カナダ)も招待すべきであると述べた。
4. サウジアラビア「オカーズ」紙社説(12日付)  
「調停者間の争い・・・そして会議の失敗」  
(同会議を)良く言おうとしても、同会議は結果を出せなかったばかりか、実現できるかもしれない可能性について吉報をもたらすこともなく、会議前から会議中まで続いたメディアの騒音のレベルに過ぎない。安全地帯である同会議場開催場所近くで爆発した爆弾は、会議の結果を更に悪化させた。同会議参加諸国の発言は、イラクが危機を脱出するためのものではなかった。
5. クウェイトのアル・アワディ外務省国際機関局長の発言(12日付クウェイト各紙)
  - (1) 同会議は、このような過酷な時期に開催されたこともあり、イラクの外交の成功例の一つである。本会議では、派閥間の暴力の回避、周辺国による対テロ行為への協力、国民融和への支援、バグダード治安計画に特化して協議がなされ、イラクと無関係な問題は協議されず、米国・イラン間の二国間会合は行われなかった。
  - (2) 同会議では、来たるイラク・コンパクトの閣僚会合についても言及された。クウェイトはイラクに関する如何なる会合に対しても、成功に向けて努力する。

本「かわら版」の許可なき複製、転送、引用はご遠慮ください。

ご質問・お問合せ先 財団法人中東調査会 TEL:03-3371-5798、FAX:03-3371-5799